



ときがわベンチ  
ベンチプロジェクトにて。児童  
の色塗りを手伝  
いました。

9月29日



今回のイベントのチ  
ラシも学生自ら作成。学  
校やコンビニに置いて  
もらい周知をしました。



2月24日



3年生(当時)  
桶谷美縁さん  
(ときがわ町)

3年生(当時)  
福寄千紘さん  
(岡山県出身)

「ときがわ新聞」は  
私が作りました!



多世代が知恵を  
寄せ合い、昔と  
今の地図が完成。



弓立山に建立した634mの「ときがわ  
タワー」が目を引きます。梶平に空港  
ができたり、町の面積が広がったりす  
るなど、夢も広がる地図ができました。

大人からは「子どもの発想に驚いた」、子どもからは「昔  
の町が知れて嬉しい」「西平に映画館やパチンコ屋があっ  
たなんて知らなかった」と驚きの声が聞かれました。また、  
子どもの中から「あんまり作りすぎも、未来に借金をす  
るからよくない」との意見もありました。今回のイベン  
トは、昔を知る大人たちと未来を担う子どもたちをつな  
げ、未来のある姿を考える良い機会となりました。

未来のときがわ完成!?



そして、集大成となるイベントを  
計画しました。学生自身で考えた多  
世代交流のイベントは、「昔と今と  
未来の地図づくり」。学生自ら作っ  
た町の地図に、過去にあったもの  
の地図、今あるものの地図、これら  
の未来地図を、地元の方の協力を得  
て、書き入れていくイベントです。  
当日の2月24日(土)には、8人の子  
どもたちが参加。町の知らない過去  
を発見したり、タワーや駅など未来  
の町に盛り上がったりに姿に、学  
生は「来てくれるかも不安だったの  
で嬉しい。ワイワイ楽しそうで、開  
催してよかった」と嬉しそうでした。  
これまで多くの地域を見てきた学  
生たちに、ときがわ町はどんなとこ  
ろか聞いてみると、こんな答えが  
返ってきました。「自然の豊かさが  
良いのはもちろん、外から来た人  
を受け入れる態勢が整っているん  
です。そして、特に会の井上秋男さん  
たちがそうですが、『外の意見も聞  
かなきゃいけない』って高齢者自  
身が言っていて、前向きなんです」。  
変化を受け入れる柔軟性がある  
ば、町にはまだまだ伸びしろがある  
はずです。 ■ (特集おわり)

**東** 京都豊島区にある、大正大  
学の地域創生学部。ここで  
は、地域づくり、コミュニティ、地  
域経済を学んでいます。この大学に  
よるふるさと支援隊も、ときがわ町  
で活躍しています。学生は、メイ  
ンで活動する3年生2人、4年生3人  
(学年は取材時)。「いきなり縁もゆ  
かりもない町や村に電話して、1か  
月住み込みで手伝う」などといった  
大変な活動を通じて、地域の住民と  
交流し、地域の課題を見つける授業  
を受けてきました。  
令和5年度の活動場所となったと  
ときがわ町では、慈光茶再生の活動や  
「ときがわベンチベンチプロジェクト」  
の活動に加え、「どんぐり山を  
守る会」に参加。この会との関わり  
は多く、訪問者のための階段づくり  
や、クリスマスローズを植える活動  
を手伝い、交流を深めてきました。